

教えて！おぐりん先生！ 「投資のレシピ」 特別版・第2弾



みなさん、こんにちは。株式会社和キャピタルの小栗です。

当資料は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポートに連載しているコラム「投資のレシピ」（第25回～第36回）を集めたコラム集です。特別版・第2弾の今回も、投資の心得を分かりやすく解説します！



愛称：おぐりん先生

お知らせ

『なごみの杜』の特設サイトにおいて投資の心得や市場環境を解説する「見る 聴く なごみ」を開設しました。当チャンネルでは「投資のレシピ」の動画版など様々な動画を公開する予定です。是非、ご覧ください。

『なごみの杜』特設サイト

URL <https://nagominomori.info/>

QRコード



※ パソコン・スマートフォン共通

投資の心得や市場環境などを動画で解説

「見る 聴く なごみ」



当ファンドのお申込みにあたっては、必ず最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■ 設定・運用は

GCI Asset Management

株式会社GCIアセット・マネジメント
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第436号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人投資信託協会

■ 投資助言会社

Nagomi Capital

株式会社和キャピタル
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2924号
金融商品仲介業者 関東財務局長（金仲）第847号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会

※ 最終ページの「当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項」をご覧ください。



目 次

- 1 「初心忘るべからず」～ 相場の変動によって右往左往しないこと ～
- 2 「投資と預金の違い」～ 投資は入口と出口をセットで考える ～
- 3 「全ての投資商品が上昇した後の相場は要注意」
- 4 「買いは売るため、売りは買うため」
- 5 「相場が膠着して動かない時は、何もなくて良いのでしょうか？」
～ 相場が動いていない時こそ、しっかり考えてください ～
- 6 「投資には “ 遊び = 余裕 ” が必要です」
～ 投資の「さ・し・す・せ・そ」の『さ』・・・ さあ、相場を楽しもう ～
- 7 「プリンとプディングは同じもの？ 違うもの？」
- 8 「オリンピックと同じで、投資も参加することに意義がある」
- 9 「投資も団体競技もチームプレーが大事！」
～ 個々の力を結集して、より安定的な成果を上げましょう ～
- 10 「投資は気の持ちよう」
- 11 「すぐに結果を求めない」・・・ 投資の「さ・し・す・せ・そ」の『す』
～ 果報は寝て待て ～
- 12 「日本の市場が休みで取引できない時は無理をしない！」
～ 日本の市場が休みで海外の市場が開いているときに向けての心得 ～

1

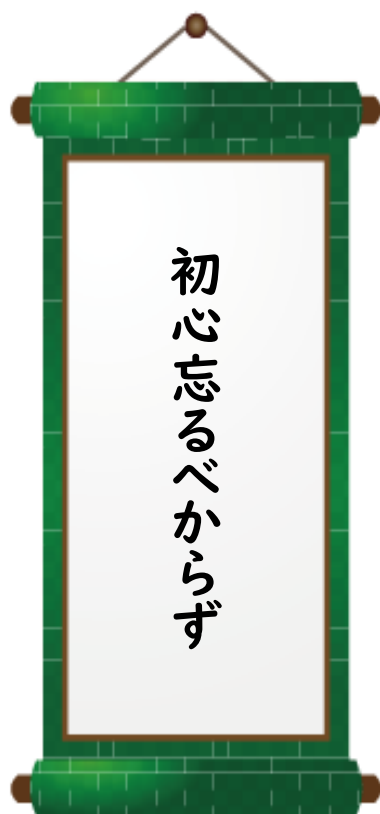
「初心忘るべからず」

～ 相場の変動によって右往左往しないこと ～

今年（2021年）も、コロナの感染やワクチン開発の状況次第で急に動くような不安定な相場展開が続くと予想されます。通常であれば、相場は政治や経済状況などにより緩やかに動くので、投資判断するにも十分に検討する時間があります。しかし、コロナ感染拡大による相場急落は突然やってきますから、ほとんど考える時間がありません。そのような時にはどうすれば良いのでしょうか？

それは、投資を開始する時に決めた長期投資なのか短期投資なのかに従って対応して下さい。長期投資したものは、一時的な相場の急変に一喜一憂しないでそのままに、短期的に相場の変動で儲けようとしたものは、当初決めた利食いやロスカット水準で売りましょう。長期投資したものが含み益になったから売るとか、短期投資したものが含み損になったから売らないで長期で持とう（市場ではこれを塩漬けにするとはいいます）とか思わないで下さい。まさに、「初心忘るべからず」です。

一年の計は元旦にあるがごとく、強い意志を持って投資し、相場の変動によって右往左往しないことで、みなさんが今年の年末を笑顔で迎えられるように祈念しています。



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2020年12月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

2

「投資と預金の違い」

～ 投資は入口と出口をセットで考える ～

みなさんが豊かな生活や安心できる老後を送るために、お金は大切なものの1つです。さまざまな目的で貯蓄をしている人は多いと思いますが、「預金」が「お金を貯める」ものであるならば、「お金を動かしながら増やす」のが「投資」です。大きな違いは、預金はお金が減らない（厳密に言うと、現金は減らないものの、将来物価が上がれば目減りすることもある*）一方、投資はお金が増えることも減ることもあるということです。ですから、預金は当面使い道のないお金を入金すること（入口）だけを考えれば良いのですが、投資は購入（入口）と売却（出口）をセットで考えることが重要です。みなさんは、お金を増やそうとして投資しますが、相場の変動によっては減ることもあるわけですから、売却（出口）のタイミングを間違えるとお金はどんどん減っていくこともあります。もしそのお金が、安心できる老後を送るためのお金だったら大変なことになります。

今後、みなさんが「預金」ではなく「投資」を実行する時は、相場の水準や購入するタイミングをしっかりと検討することが大切なのはもちろんですが、それ以上に、投資の目的を明確にし、将来どれ位の水準・タイミングで売却するかを同時に決めた上で実行することが大変重要だということを忘れないでください。

* 『投資のレシピ』第22回「投資しなければ損はしないと考えているかもしれませんが、目減りすることがありますよ！」（2020年9月末基準の月次レポートに掲載したコラム）をご参照下さい。

< 過去の月次レポートは特設サイト <https://nagominomori.info/report/> でご覧頂けます。>



預金

「お金を貯める」



- お金を入金すること（入口）について考えれば良い。

投資

「お金を動かしながら増やす」



- 「投資」を実行する時は、相場の水準や購入するタイミング（入口）をしっかりと検討することが大切。
- 同時に、投資の目的を明確にし、将来どれ位の水準・タイミングで売却するか（出口）を決めた上で実行することが大変重要。

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年1月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

3 「全ての投資商品が上昇した後の相場は要注意」

昨年（2020年）のコロナショックのように、相場が急落した後に底値をつけて上昇に向かい始める時は、多くの人がまだ下がるかもしれない？と相場に対して自信を持っているわけではありません。ですから、業績が良いのに売られすぎの株式とか、本来なら売られなくてもよいのに連れて売られた投資商品など、上がりそうと思われる物におっかなびっくり少額から投資し始めます。

そして、それらの商品がある程度上昇してくると、それまで買われていなかった株式や投資信託やゴールドなどの貴金属まで買われるようになります。

このように、様々な投資商品が上昇する局面では、少し価格が下がっても買いそびれた2番手3番手で買う人達が相場を下支えし、全体としては上昇基調が続けることが多いと思います。

すなわち、出遅れ買いが広がっていくと、最後は買われる要因のない商品までが買われだし、市場は全面高の様相となります。まさに、買いが買いを呼ぶ状況となります。

全面高となった後に価格が下落しだすと、買い手がなくなるため、相場の下落が止まらなくなることが多いですから、市場の動きに流されることなく、投資商品の価格水準を冷静に判断した上で買うべきかどうかをしっかりと見極めてから投資しましょう。



4 「買いは売るため、売りは買うため」



基本的に、投資は金融商品を買うところから始まります。買う前は、何に投資しようか迷ったり、買うタイミングをはかったり、どこまで上がったなら売って利益を出そうとか、どこまで下がったら売って損失を確定させようか真剣に考えていると思います。そして、日々の相場の動きに一喜一憂していることでしょう。しかし、それは含み損益で実現損益ではありません。あくまで仮定の話です。

言うまでもありませんが、一番重要なのは実現させた利益や損失です。そのためには、売ることが必要不可欠です。投資資金は無尽蔵にあるわけではありません。限られた余裕資金の範囲内で効果的な投資を行うためには、売って損益を確定させて手元に現金を持ち、次の投資のタイミングをはかる、そしてそれを継続することが重要です。みなさん、「買って終わりではありません。売って終わりでもありません。」

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年2月末基準および2021年3月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

5

「相場が膠着して動かない時は、何もしなくて良いのでしょうか？」 ～ 相場が動いていない時こそ、しっかり考えてください ～

みなさんは、相場が膠着してあまり動かなくなると、「今投資している商品の価格は動かないから、大して損も得もしないし、慌てて新しい投資する必要もないから何もしなくて良い」と様子見を決め込んでいませんか？それは、大きな勘違いです。相場が膠着するのは、主要な市場参加者が、現状分析と今後の市場の動きを再検証し、これから何にどれだけ投資し、どのように利益を上げていくのかといった投資戦略を練っている時に起こりがちです。そして、機関投資家がタイミングを見計らって大きな金額を売買してきて相場が動きだします。ですから、みなさんも膠着して相場が動かないからと安心してはいけません。

相場が動いている時は、どうしても相場の変動や価格ばかりが気になってしまい冷静な判断ができなくなります。相場の膠着期間は、長期的かつ安定的に投資をしていく上での重要な時間ですので、現状の投資商品や評価損益は当初の想定と相違していないか、今後も現状の投資のまま行くのか、投資方針を見直すのかを考えるなど有意義に活用するようにして下さい。



相場の膠着期間

相場が膠着するのは、主要な市場参加者が、現状分析と今後の市場の動きを再検証し、これから何にどれだけ投資し、どのように利益を上げていくのかといった投資戦略を練っている時に起こりがちです。



**長期的かつ安定的に投資をしていくにあたり、
保有している投資商品の状況を確認し、今後の投資方針を考える重要な時間です。**

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年4月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

6 「投資には “ 遊び = 余裕 ” が必要です」

～ 投資の「さ・し・す・せ・そ」の『さ』・・・さあ、相場を楽しもう ～

車は、ハンドルを大きく切ると、それに応じて左右に曲がりますが、少し切った位では全く反応しません。これはハンドルに“遊び＝余裕”があるからです。ハンドルは車の向きを変える大事な装置ですが、あまりに敏感すぎると運転に疲れてしまいますし、左右に蛇行して危険でもあります。そこで、自動車メーカーでは、ある程度の範囲までは反応しない領域を意図的に設定しています。

投資判断も全く同じ事が言えます。現在は、望むと望まざるにかかわらず、日々大量の情報が目に飛び込んできます。しかし、そのすべてに敏感に反応して売買していれば精神的にも疲れてしまいますし、無用なロスを出しかねません。車は、自動車メーカーが事前に“遊び”を設定してくれていますが、自己投資には、自分で心に“遊び＝余裕”を設定するしかありません。

投資とは、自分の余裕資金を将来のために中長期的に増やしていくことが目的ですから、細かい事は気にせず、常に心に余裕を持って、日々の相場変動に一喜一憂せずに相場の変動すら楽しむ位の大きな気持ちでやって行きましょう。

* 投資の「さ・し・す・せ・そ」の内容については、『投資のレシピ』第1回「投資は、料理と同じ！」（2018年12月末基準の月次レポートに掲載したコラム）をご参照下さい。

< 過去の月次レポートは特設サイト <https://nagominomori.info/report/> でご覧頂けます。>



投資の「さ・し・す・せ・そ」

さ

さあ、相場を楽しもう。

し

シンプルに考える。

す

すぐに結果を求めない。

せ

急いては事をし損じる。

そ

そうは言っても、最後は自分で決断する。



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年5月末基準）に掲載したコラムです。

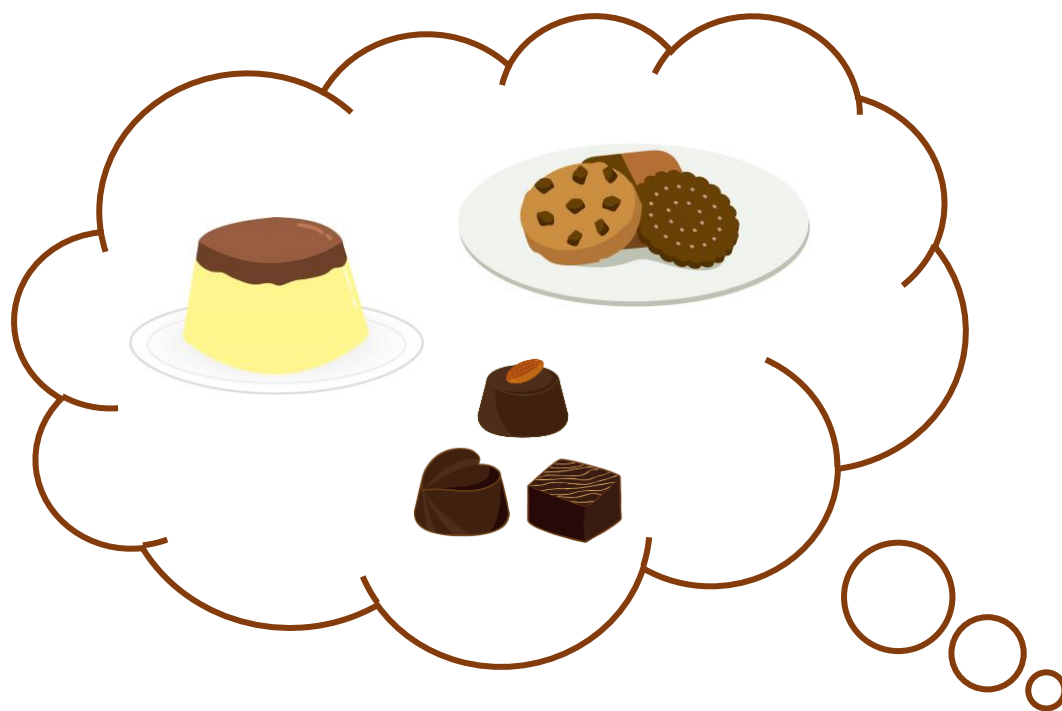
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

7 「プリンとプディングは同じもの？ 違うもの？」

みなさんは、プリンやプディングと言われて同じものを想像しますか？ 違うものを想像しますか？ チョコレートとショコラ、クッキーとサブレなどもそうですが、厳密には少し違うものだったり、英語をフランス語に言い換えたりしたものですので基本的には同じものです。

市場の用語でも似たようなことがあります。たとえば、日米の為替相場で言えば、「円高」と「ドル安」は同じ事です。もちろん、「円安」と「ドル高」も同じです。「円高」と聞いても、市場の状況によっては、対米ドルでは「円高」、対ユーロに対しては「円安」ということもあります。また、日経平均株価についても「上がった」とか「下がった」とか言いますが、全銘柄の株価が「上がった」わけではなく、「下がった」銘柄もあるということです。すなわち、使われる言葉によって、実際と違うことを想像したり、正反対の意味に解釈したりしてしまうことがあります。

ですから、市場の情報を見聞きする時は、言葉尻だけで理解しようとしなくて、「何」が「どうなった」かをしっかり把握して、市場の動きを理解するようにしてください。



- ※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年6月末基準）に掲載したコラムです。
- ※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

8 「オリンピックと同じで、投資も参加することに意義がある」

1年延期された東京2020オリンピック大会が開催されました。オリンピックには、「参加することに意義がある」という名言があります。同じように、投資も「参加することに意義がある」、すなわち、投資を実行することが重要ということです。投資ですから、当然勝ち負けは付き物ですが、参加しなければ何も始まりませんし、何も起こりません。

投資に参加するからには、当然勝ちたいですね？ 勝つためには何が必要かと言いますと、オリンピック選手が、本番に向けて万全の準備をしてメダルを取りに行くように、投資でもしっかりした事前準備が重要です。

投資の事前準備とは、相場動向のチェックや世界経済の動き、専門家のレポートを読むなど、市場の現状を認識することから始まります。次に、投資の目的に合った投資金額や投資商品の選定、投資期間などを考えます。しかし、これらはウォーミングアップに過ぎません。スタートラインに立つまでの準備です。これから、一歩踏み出して初めて「投資に参加」することになりますので、自分で考えた投資判断を信じ、ゴールを目指して頑張りましょう。



- ※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年7月末基準）に掲載したコラムです。
- ※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

9

「投資も団体競技もチームプレーが大事！」

～ 個々の力を結集して、より安定的な成果を上げましょう ～

東京オリンピック2020が無事閉幕しました。結果は、史上最多58個のメダル獲得と日本選手団は大健闘しました。その中でも、それほど注目されていなかった複数の団体競技がメダルを取ったのが印象的でした。男子フェンシング、女子バスケットボール、男子アーチェリーなどが挙げられると思います。個々の力は相手チームより劣っていても、戦術やチームプレーの徹底により、チームとしてより大きな力を発揮し勝利することができたと思います。

同様に、投資もチームプレーが大事です。みなさんが投資している金融商品は、株式、債券、投資信託など商品性の異なるものがあると思いますが、個々の金融商品の価格は、同じ様な動きをする物もあれば、正反対の動きをする物、まったく関係なく動く物もあります。そして、それら全てを合わせたものが、みなさんの保有投資資産になります。

保有する複数の投資資産（チーム）の組み合わせを考える際には、個々の投資商品の運用成績はもちろんですが、市場環境が変化しても商品がお互いに補完し合って、リスクを抑えながら収益が上げられるように、チームプレーを意識した運用をすることが大事です。



- ※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年8月末基準）に掲載したコラムです。
- ※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

10 「投資は気の持ちよう」

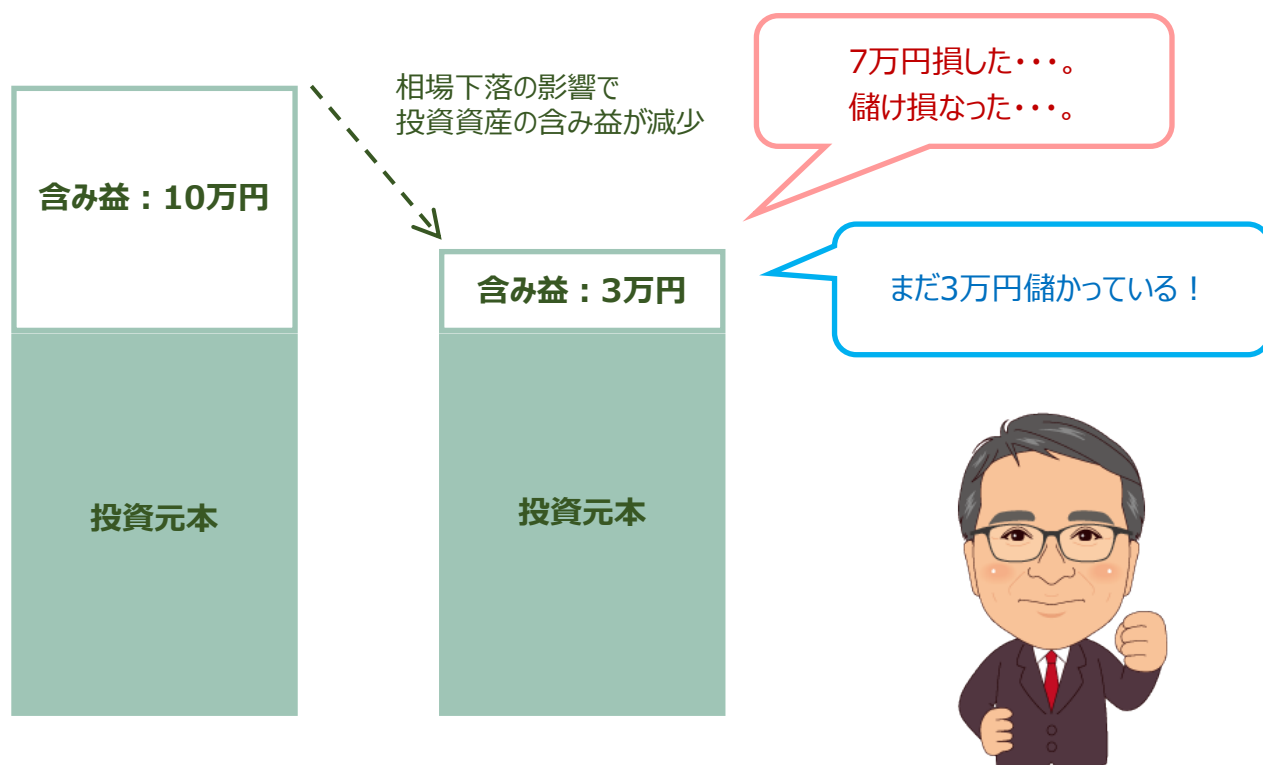
相場が大きく上下に振れると心配になるのは「投資のプロ」も個人投資家のみなさんも同じです。では、どこが違うのでしょうか？一般的に「投資のプロ」は、物事を前向きに考えます。例えば、10万円の「含み益」があったとしましょう。もし、相場が下落して10万円の「含み益」が3万円になったら、みなさんは「7万円損した、儲けそくなった」と思うことが多いのではないのでしょうか？しかし、「投資のプロ」は多くの場合、「まだ3万円儲かっている」と考えます。この違いが重要なのです。

「投資のプロ」は、3万円の利益を出して、次の買うタイミングを探ります。しかし、個人投資家のみなさんは、相場が上がって10万円の含み益になるまでじっとしていることが多いでしょう。もし、予想に反して相場が下がったら、含み益がゼロになるまで耐えて、損失になったところで耐えられず売ってしまうケースも多いのではないのでしょうか？

現状は同じでも、気持ちの持ちようで次の行動や結果に大きな差ができることを覚えておいてください。

相場がこれからどちらに動くかは誰にもわかりません。様々な制約の上で運用を行うプロの投資家と異なり、個人投資家のみなさんは、時間を味方につける長期投資が可能です。相場の下落局面では、過度に悲観的になるのではなく、冷静に現状を分析し、未来を見据えることが大切であると考えています。

含み益が減少した際の考え方 ＜例＞



※ 上記は例であり、全てを説明するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年9月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

11

「すぐに結果を求めない」・・・投資の「さ・し・す・せ・そ」の『す』
～ 果報は寝て待て ～

将来の人生を豊かに過ごすための資金として、当面使い道のない余裕資金を、情報収集しながら自分なりに一所懸命に考えた上で長期投資したはずなのに、少し経って価格が上がって来ると売って利益を出してしまうかなとか、価格が下がったから心配だと思った経験はありませんか？ 市場は、世界の様々な出来事や景気の状況などで日々変動しますが、中長期の相場トレンドを変えるような要因はそうそうある訳ではなく、ほとんどが一時的な変動に終わります。ですから、投資の結果をすぐに求めすぎると相場を見誤ることになります。

相場の動きは自分ではコントロールできません。そもそも、将来のための資産形成をしているのですから、目先のことに気を取られず、やるべきことをやったら、結果を気にするよりも、慌てず焦らず落ち着いて待っているのが良いと思います。「果報は寝て待て」です。

安定的かつ長期的に将来の資産を増やすのが投資の目的ですから、果実が十分に熟して木から落ちてくるまでじっくり待つ気持ちがないと、正しい長期の投資に結びつきません。腰を据えてじっくりと構えることが好結果を生む秘訣です。

* 投資の「さ・し・す・せ・そ」の内容については、『投資のレシピ』第1回「投資は、料理と同じ！」（2018年12月末基準の月次レポートに掲載したコラム）をご参照下さい。

< 過去の月次レポートは特設サイト <https://nagominomori.info/report/> でご覧頂けます。>

投資の「さ・し・す・せ・そ」

さ

さあ、相場を楽しもう。

し

シンプルに考える。

す

すぐに結果を求めない。

せ

急いては事をし損じる。

そ

そうは言っても、最後は自分で決断する。



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年10月末基準）に掲載したコラムです。
※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

12

「日本の市場が休みで取引できない時は無理をしない！」 ～ 日本の市場が休みで海外の市場が開いているときに向けての心得 ～

年末年始やゴールデンウィークのように、日本の市場が何日間か休みで取引ができないのに、海外の市場が開いている時期があります。日本の市場は、海外市場の動向に影響を受けやすいのですが、ある出来事をきっかけに海外で相場が大きく変動しても、日本の市場は休みなので何も対応できません。更に、海外の金融商品に投資している方々は、直接的に相場変動の影響を受けます。

過去を振り返ってみても、何回も日本市場が休みの日に大きな相場変動が起こったり、相場の方向性が変わったりした事があります。特に年末年始は、海外の企業が12月決算で、新年度入りする1月から投資方針ががらりと変わる事もあります。しかし、相場の急変時に何もできずに不安で仕方がなく、せつかくのお正月気分が台無しになります。

年末年始やゴールデンウィークなど日本市場の休みは事前に日程がわかっている訳ですから、その時期の安易な短期投資は極力控えることが重要です。休場の間、どれ位の投資資産にするかを決めて、徐々にそれに向けて調整していきましょう。但し、長期投資の資産については、相場変動に一喜一憂することなく、お正月にその年の投資方針をじっくり考える事をお勧めします。



※ 上記は、『マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）』の月次レポート（2021年11月末基準）に掲載したコラムです。

※ 当資料の内容およびコメントは、各コラム作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

ご挨拶

おぐりん先生の「投資のレシピ」をご愛読いただきありがとうございます。
ございます。

今年（2021年）もコロナ感染が収束せず、年内の殆どで自粛生活を強いられた1年でした。来年（2022年）こそは、コロナが収束し、マスクをせずに食事や旅行ができるような日常生活を送れることを期待しています。

来年も、投資の心得が身につき、安定した投資をサポートする「レシピ」をお届けしてまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

おぐりん先生



「なごみの杜」は、和キャピタルの助言を受けて運用する
「初めての公募投資信託」です。

当ファンドは、**基準価額の変動リスク（*1）を年率2%程度に抑えながら、
年率1.2%程度（*2）の安定的な投資収益の確保を目指した運用を行います。**

*1：価格の値動きの大きさを表します。この値が小さいほど、価格変動リスクが小さく低リスクを意味します。

*2：信託報酬控除後のものです。なお投資収益は、中長期的に目指す目標であって、その達成を示唆あるいは保証するものではありません。

ファンドの特色

1. マザーファンド※への投資を通じて、先進国株式、先進国の国債を中心にグローバルな分散投資を行います。

※ GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）

2. マザーファンドの運用については、株式会社和キャピタルの投資助言を受けます。

投資助言会社：株式会社和キャピタル

和キャピタルは地域金融機関を初めとする機関投資家（特定投資家）に対して、流動性を確保しながら機動的運用を行うことで、安定的かつ持続的な収益を確保することを目指す投資助言サービスを提供しています。

3. 実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

4. 原則、毎年2月および8月の各10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づき、分配を行います。

投資リスク

当ファンドは、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。**

当ファンドが有する主なリスク要因は以下の通りです。

株価変動リスク	株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
金利変動リスク	債券などの価格は、一般的に金利低下（上昇）した場合は値上がり（値下がり）します。なお、債券などが変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者などの財務状況の変化などおよびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。債券などの価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
為替変動リスク	為替相場は、各国の経済状況、政治情勢などの様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、当ファンドおよび投資信託証券において、外貨建資産について、為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図りますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分等のコストがかかることにご留意ください。
信用リスク	投資対象となる債券等の発行体において、万一、元利金の債務不履行や支払い遅延（デフォルト）が起きると、債券価格は大幅に下落します。この場合、当ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。また、格付機関により格下げされた場合は、債券価格が下落し、当ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。
デリバティブ取引のリスク	当ファンドは有価証券および金利関連のデリバティブ（先物取引の金融派生商品）に投資することがあります。デリバティブの運用には、ヘッジする商品とヘッジされるべき資産との間の相関性や流動性を欠く可能性、証拠金を積むことによるリスク等様々なリスクが伴います。実際の価格変動が見通しと異なった場合に、当ファンドが損失を被るリスクを伴います。
流動性リスク	時価総額が小さい、取引量が少ないなど流動性が低い市場、あるいは取引規制などの理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料

購入価額に**1.1% (税抜1.0%)** の率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

信託財産留保額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.05%**の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用
(信託報酬)

純資産総額に対し**年率0.88% (税抜 年率0.80%) 以内**
信託報酬率は、ファンドの純資産総額の残高に応じて変更します。

純資産総額	100億円以下部分	100億円超部分
信託報酬率	年率 0.88% (税抜 年率 0.80%)	年率 0.825% (税抜 年率 0.75%)

その他の費用・手数料

以下の費用・手数料がファンドから支払われます。

● 監査法人に支払われるファンドの監査費用

● 有価証券等の売買時に発生する売買委託手数料

● 外貨建資産の保管等に要する費用

● ファンドに関する租税

● その他信託事務の処理にかかる諸費用 等

※ 上記の費用・手数料は、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。

※ 投資者の皆さまにご負担いただく手数料等の合計額については、当ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

お申込みメモ

購入・換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。（ファンドの基準価額は1万口あたりで表示しています。）
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購入・換金の申込受付不可日	ニューヨークの銀行休業日、ニューヨーク証券取引所の休業日およびロンドンの銀行休業日 ※ 詳しい申込受付不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みを取り消すことがあります。
信託期間	2018年6月20日（設定日）から2023年2月27日まで ※ 受益者に有利であると認めたときは、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することができます。
決算日	原則、毎年2月および8月の各10日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年2回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。収益分配金の受取方法により、「一般コース」と「自動引き落とし投資コース」の2つの申込方法があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度（NISA）および未成年者少額投資非課税制度（ジュニア NISA）の適用対象です。配当控除・益金不算入制度の適用はありません。

※ その他の項目につきましては、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

販売会社

金融商品取引業者等の名称		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
岡崎信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第30号	○			
株式会社東和銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第60号	○			
株式会社福井銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第2号	○		○	

- ※ お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- ※ 販売会社は今後変更となる場合があります。

収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は、前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、株式会社GCIアセット・マネジメント（以下「当社」といいます）が、当ファンドの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。
- 投資信託は預金保険制度の対象ではありません。また、銀行が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。